

令和5年度 岡本北小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

【基本目標】

個々の特性や能力を最大限に伸ばし、心身ともに健康で、創造性と実践力に富み、「知」「徳」「体」のバランスのとれた力を育成するとともに、社会の変化に向き合い、生き抜いていくために求められる力を養う。

【具体目標】（目指す子どもの姿）

・学び合う子 ・助け合う子 ・鍛え合う子

【子どものスローガン】 「つよく やさしく かしい子」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化を目指して全教職員が一丸となり、創意と活力にあふれ、児童の主体性を活かした教育活動を展開するとともに、「安心・安全に生活することのできる楽しい学校」「自分の力を発揮し互いに高め合える学校」「きまりを守りお互いを尊重し合う学校」「保護者や地域から信頼され地域とともにある学校」を目指した学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 心豊かでたくましく生きる児童を育成する教育活動を積極的に推進するとともに、一人一人が安心して生き生きと活動できる学校づくりに努める。
- (2) 「宇都宮モデル」を活用した授業改善や個に応じた指導、ICTの有効活用等により、基礎・基本の定着と主体的・対話的な学びを実践できる確かな学力の向上を目指す。
- (3) 自ら健康や体力づくりに励むとともに、自他の生命を尊重し、児童一人一人が、健康で安全な学校生活を送るための判断力と行動力を育成する。
- (4) 教職員としての使命と責務を自覚し、専門職として日々研鑽を積み、指導力及び資質の向上を図る。
- (5) 校務の明確化・重点化・効率化を推進し、やりがいとチームとしての協働意識をもって勤務できる学校づくりに努める。
- (6) 学校、地域、家庭との連携、学校園における小中の連携を推進するとともに、地域の教育資源や教育力を活用し、開かれた学校づくりを推進する。

【古里地域学校園教育ビジョン】

夢や希望をもち、その実現に向けて、よく考え、思いやる心を磨きながら、生きる力を身に付ける児童生徒の育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 本校の教育課程は、日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び同施行規則等の諸法律、小学校学習指導要領、栃木県教育委員会の指導方針、宇都宮市教育委員会の指導方針、第2次宇都宮市学校教育スタンダード、学校教育指導の重点・努力点を踏まえた教育課程を編成する。
- (2) 「1学校教育目標」及び「3学校経営の方針」「5今年度の重点目標」に則り、地域や学校、児童の実態及び児童の心身の発達と特性を十分考慮して、知・徳・体の調和のとれた、心豊かでたくましい児童の育成が図れるように「7特色ある学校づくり等に関する取組」を組み込み充実した教育課程を編成する。
- (3) 学校行事や諸教育活動のより一層の精選を図るとともに、教育活動が創意と工夫に満ちたものになるよう教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
 - 児童一人一人のよさや可能性を伸ばし、主体的に困難に立ち向かうたくましい児童の育成
 - ・本校のイメージキャラクター「きらりん」を活用した主体的な取組の充実
 - ・校務内容の改善と遂行の効率化と勤務時間を意識した働き方の推進
- (2) 学習指導
 - ・「宇都宮モデル」を踏まえた授業改善の推進と創意工夫した家庭学習の習慣化
 - ・言語活動の一層の充実により対話的な活動へと発展させる協働的な態度の育成
 - 1人1台端末、ICTを活用した授業展開の工夫や地域の教育資源や教育力を有効活用した学習活動の充実
- (3) 児童生徒指導
 - ・基本的生活習慣の定着と規範意識の醸成、思いやりの心の育成
 - いじめ・不登校等の未然防止、早期発見及び適切な初期対応等による支援の充実
 - ・一人一人の存在感を認め合える学級づくりの充実
- (4) 健康（保健安全・食育）・体力
 - ・年間を通しての多様な体力向上推進計画の実践
 - 自他の命の大切さを考え、危険を予測し、正しく判断して行動する児童の育成
 - ・望ましい食習慣の定着と健康を管理する能力の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止 を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 児童→ 90%以上 教職員→ 90%以上	① 児童の興味関心を高める学習課題の設定やICT機器の日常的な活用を図り、「分かる」「できる」授業の展開に努める。 ② 効果的なグループ活動や話し合う場面を意図的に設定し、自分の考えを発表したり、友達の意見に耳を傾けたりすることで、互いの良さを認め、協働して課題解決を目指す機会を確保する。 ③ 宇都宮モデルを踏まえた「はっきりに！じっくり！すっきり！」の授業の流れを意識した授業を構成し、特に振り返りの時間を確保することで、深い学びの実現に努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は92%、教職員も92%であり、ともに指標の90%を上回った。 ・ICT機器の活用や話し合い活動等、宇都宮モデルを意識した授業展開に努めることで、児童の主体的な学びを促すことができた。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・①②引き続き「分かる」「できる」授業展開に努め、互いの良さを認め合い、協働して課題解決を目指す機会をより多く確保するとともに、ICT機器の更なる日常的な活用を目指していく。 ・③視点を明確にした振り返りを継続し、さらに深い学びの実現に努める。

1ー(2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 教職員→ 85%以上	① 学級の係活動や児童会活動、縦割り班活動、学校行事等において学校のキャラクター「きらりん」を有効に活用し、児童の自主性を尊重しながら、互いに協力して活動する場を意図的に設ける。 ② 日頃から児童の善い行いや頑張りを率先して称賛するとともに、教職員間で情報を共有する。また、各種たより等を通して児童のよさを発信するとともに、「ふわふわ言葉」を各学級で作成・掲示し適宜指導することで、自己肯定感を高めたり、意識の高揚を図ったりする。 ③ 道徳科や総合的な学習の時間等の授業を充実させるとともに、人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育の充実を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 90.7%、教職員は 100%であり、ともに指標の 85%を上回った。 ・学級活動や縦割り班活動等において、児童同士が互いの良さを認め合う機会を確保するとともに、児童の善い行いを教職員間で共有することができた。 【次年度の方針】 ・①③継続 ・② 3年目の取組として教職員間では定着しているが、児童による「ふわふわ言葉」の励行については、児童の意識を高める工夫を行う。
	A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 保護者→ 85%以上 教職員→ 85%以上	① 授業や当番活動・委員会活動等において、児童同士が目標に向かって協働する姿を積極的に認め励ます指導を通して、児童の自己肯定感を高める。 ② 道徳科の内容項目「自主、自立、自由と責任」「向上心、個性の尊重」「希望と勇気、努力と強い意志」等において、目標に向かって粘り強く取り組むことのよさに気付かせるとともに、実践意欲を高める。 ③ 児童が目標達成に向け意欲的に取り組む姿を、各種たよりやホームページ等で保護者や地域等に発信する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 93.3%、教職員は 92%であり、ともに指標の 85%を上回ったが、保護者は 76%であり、指標を下回った。 ・授業や学校行事等における児童同士の協働する姿を認め励ます声掛けや掲示物の工夫、活動後の振り返りにおける互いの良さを認め合う取組等をとおして、自己肯定感を高める良い機会となっている。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・③ 児童の頑張りをより一層周知できるように、各種たよりやICT機器の効果的活用や授業参観等のあらゆる機会を捉え、保護者等へ積極的に情報発信・共有に努めていく。
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「私は、健康や安全に気を付けて生活している。」における肯定的回答 児童→ 90%以上 保護者→ 90%以上 教職員→ 90%以上	① 早寝早起き・朝ごはんの摂取について、家庭と連携を図りながら継続して周知し指導を行う。 ② 規則正しい生活を送るために、スマホ、ゲーム等の利用時のルールや睡眠時間の確保等について家庭とも連携を図りながら、日常的に指導を行う。 ③ 日常における安全指導を充実させるとともに、避難訓練等を計画的に実施し、危険を予測し、自らの生命を守る判断力や態度を育てる。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 94.3%、保護者は 90.5%、教職員は 96%であり、すべて指標の 90%を上回った。 ・保健だより等による周知や生活習慣チェック等の家庭と連携した取組が奏功したと考えられる。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・② 特にスマホ等の正しい使い方について、課題を整理し、発達段階に応じた日常的な指導ができるよう、家庭と連携して実施していく。

1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 教職員→ 80%以上	① 授業や当番活動・委員会活動等において、児童同士が目標に向かって協働する姿を積極的に認め励ます指導を通して、児童の自己肯定感を高める。【A3①再掲】 ② 効果的なグループ活動や話し合う場面を意図的に設定し、自分の考えを発表したり、友達の意見に耳を傾けたりすることで、互いのよさを認め、協働して課題解決を目指す機会を確保する。【A1②再掲】 ③ 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自分のよさを自覚し、夢や目標の実現を目指して努力しようとする意欲や、望ましい職業観を、キャリアパスポートを効果的に活用しながら、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 90.2%、教職員は 92.0%であり、それぞれ指標の 85%、80%を上回った。 ・児童同士が協力し合い、自他のよさを認め合える学級活動や委員会活動が年間を通して実施することができた。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・継続して実施し、キャリア形成の視点も踏まえ、各種取組の「振り返り」を充実させていく。また、児童のより良い姿を各種たよりやホームページ等で、積極的に発信していく。
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、外国語活動(英語)の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」における肯定的回答 児童→ 80%以上 教職員→ 80%以上	① 外国語科及び外国語活動の授業において、必然性のある言語活動を設定することで、自分の気持ちや考えを表現し合うことができるようにする。 ② ALTと連携し、学年の実態に応じた外国語科及び外国語活動に取り組むことで、英語に親しみ、英語を使って積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を養う。 ③ 教材教具の工夫・資料の充実を図り、英語に関わる環境を整備する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 85.1%、教職員は 96%であり、ともに指標の 80%を上回った。 ・担任及び児童が外国語の授業スタイルに慣れ、自分の気持ちや考えを英語で表現できる児童が増えてきた。 ・ALTと連携し、授業以外にも児童が外国語に触れる環境が整備され、外国語に親しむことができた。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・②③ 英語に親しむ活動や環境整備等をALTと連携し、次年度も工夫改善を図っていく。
	A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている。」における肯定的回答 児童→ 80%以上	① 宇都宮学との関連を図り、社会科における市内・地域に関連した学習や、生活科、総合的な学習の時間における郷土の学習等の充実に努める。 ② 教職員が研修等に積極的に参加し、宇都宮市の歴史や文化、伝統産業等についての理解を深めるとともに、校内にフィードバックすることで、互いの指導力向上を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 88.7%であり、指標の 80%を上回った。 ・地産地消の給食、体験教室、岡本城跡の清掃活動等を通して、宇都宮のよさや魅力に触れる機会の充実に努めることができた。 【次年度の方針】 ・①②継続 ・② 今後も、研修等で得られた成果を職員間で蓄積・共有し、より一層指導の充実に努める。
2ー(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート「私は、パソコンや図書等を学習に活用している。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 教職員→ 85%以上	① デジタル機器や図書資料を活用した授業を意図的・計画的に行い、児童の情報収集の能力や活用する力を育む。 ② 各教科等年間指導計画に関連した図書資料の整備・充実に努める。 ③ 読書マラソンカードの効果的な活用や朝読書の継続、毎月のボランティアによる読み聞かせ等を通じて、児童の読書活動の更なる充実に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 86.9%、教職員は 100%であり、ともに指標の 85%を上回った。 ・各学年の実態に応じてタブレット端末や図書資料を効果的に活用でき、児童の活用する力も高まってきている。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・③ 児童の読書活動の更なる充実に努めるよう、読書マラソンカードの効果的な活用方法を検討していく。

2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 教職員→ 85%以上	① 生活科や総合的な学習の時間において、SDGsに関連した授業を行うとともに、職員研修等で理解を深め、教材や教具の共有を図る。 ② 東日本大震災等の災害についての学習や、避難訓練を定期的に実施することで防災への意識を高める。また、エネルギーや環境問題等について、自分事として捉えさせ、給食時の牛乳パックリサイクル等に前向きに取り組ませる。 ③ 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。【A2③再掲】	A 【達成状況】 児童の肯定的回答率は 91.5%であり、指標の 85%を上回ったが、教職員は 68%であり、指標を下回った。 ・給食時の牛乳パックリサイクル等の日常の取組や授業での指導を通して、児童の当事者意識を高めることができた。 【次年度の方針】 ・②③継続 ・① 教職員が各種研修等を通して「持続可能な社会」について理解を深め、教材の共有・蓄積に努めるとともに、掲示物等を充実させ、児童の興味関心をより一層高めていく。
3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童（生徒）の実態に応じて、適切な支援をしている。」における肯定的回答 教職員→ 85%以上	① 特別な支援を必要とする児童について、特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心として、校内支援委員会やケース会議等において対応を協議し、組織的な指導に努める。また、早期の対応ができるよう、日頃から職員間で情報交換を密にするとともに、適宜「ミニケース会議」の開催も検討する。 ② 特別支援学級の児童や通級児童等について、個別の支援計画を作成し、合理的な配慮を伴う指導に努める。 ③ 全児童に対して全教職員が共感的理解に基づく指導に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 100%であり、指標の 85%を上回った。 ・日頃から職員間で情報共有を図るとともに、適宜ケース会議等を開催し、組織的に対応することができた。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・児童一人一人に対し、適切な支援を継続的に実施できるよう、関係機関とも連携を図りながら、より一層組織的に対応していく。
3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」における肯定的回答 児童→ 90%以上 保護者→ 90%以上	① いじめは絶対に許されない行為であることを、朝の会や帰りの会、道徳科の授業、学級活動等あらゆる場面を通して継続的に指導し、人権に配慮した学級づくりを心掛ける。 ② いじめに関するアンケート調査、「なんでも相談」、いじめゼロ集会、いじめゼロリボンの配付、ケース会議等の計画的な取組を通して、いじめの未然防止・早期発見に努める。また緊急時には、いじめ対策委員会の開催等、組織的に対応する。 ③ 全教職員が自らの人権感覚の醸成に努めるとともに、いじめを認知した場合には、組織的に対応する。また、各種たよりや懇談会等で、学校での取組について保護者に丁寧に説明し、理解と協力を求めていく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は 98.5%であり、指標の 90%を上回ったが、保護者は 76.9%であり、指標を下回った。 ・学校生活のあらゆる場面を通して継続的に指導するとともに、いじめゼロリボン着用、クラスごとのスローガン作成等を通して、児童の人権意識の高揚に努めることができた。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・③ 今後も教職員一丸となって継続して実施するとともに、「児童指導だより」や学級懇談会等を活用し、日頃の取組等について積極的に発信し、保護者や地域等への連携・協力につなげていきたい。

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切にし、児童（生徒）がともに認めあし合うクラスをつくってくれている。」における肯定的回答 児童→ 85%以上	① 日頃から児童が互いを認め合える学年・学級づくりに努めるとともに、認め励ます指導を意図的に実施することで、児童の自己肯定感を高める。 ② 「なんでも相談」、アンケート、Q U調査等の結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見に努める。また、連続での欠席等、配慮の必要な児童については、電話等により家庭との連携を図ることで未然防止に努めるとともに、速やかに全教職員で情報を共有する等、校内の支援体制を強化する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は 96.4%であり、指標の 85%を上回った。 ・日頃の声掛けや各種アンケート等を実施し、問題行動の早期発見・早期対応に取り組んだ。全職員で情報を共有し、組織的な対応に努めた。 【次年度の方針】 ・①②継続 ・今後もすべての児童が居心地のよい学校となるよう、学年・学級経営に尽力するとともに、配慮の必要な児童については、速やかに家庭と連携し、組織的に対応を行っていく。
3- (3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」における肯定的回答 児童→ 90%以上 保護者→ 90%以上	① 学校行事や児童会活動、北小タイム、集会活動等を工夫し、児童が主体的に活動する場を設定することで、児童の自己肯定感を高め、居がいを感じながら学校生活を楽しく送れるようにする。 ② 児童一人一人の特性やよさを的確に把握するとともに、児童の話を傾けたり、前向きな声かけを通して、認め、励ます指導に努める。 ③ 活動を盛り上げる雰囲気づくりに心掛けるとともに、自他の違いやよさを認め合う場面や振り返りの場を意図的に設定していく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は 96.6%、保護者は 91.5%であり、ともに指標の 90%を上回った。 ・学級活動や縦割り班活動等などにおいて、児童一人一人のよさを発揮できる場を確保するとともに、活動における「振り返り」を通して、自他を認め合う雰囲気づくりに努めることができた。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・児童の思いに寄り添いながら、児童の主体的な活動をより一層推進していく。
4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 保護者→ 85%以上	① ねらいを明確にした、分かりやすくきめ細かな授業を実践するとともに、振り返りの時間を確保することで基礎・基本の確実な定着を図る。 ② 個の特性や能力に応じた支援を工夫するとともに、T・T、少人数指導、習熟度別学習等により、効果的な指導を行う。 ③ I C T等教育機器の効果的な活用、対話を生む学習形態の工夫や、児童が考える場面と教師が教える場面の組み立て等に配慮した授業展開を行う。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答率は 97.9%、保護者は 91.6%であり、ともに指標の 85%を上回った。 ・児童の実態に応じた授業実践が、児童の分かりやすさにつながったと考えられる。 【次年度の方針】 ・①②継続 ・③ 継続して実施するとともに、I C T機器や対話を生む学習活動を効果的に設定できるよう、単元を見通した学習計画の作成に取り組んでいく。
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」における肯定的回答 教職員→ 80%以上	① 「チーム岡北」の合言葉のもと、学校行事の準備、運営や諸問題への対応を互助的、組織的に行う。 ② 教職員の特性や得意分野が生きる組織運営に努めるとともに、互いの悩みや困り感を気軽に相談し合える職員室の雰囲気づくりに努める。 ③ 職員相互の業務内容を理解し、コミュニケーションを図りながら協力し合える体制づくりに努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 92%であり、指標の 80%を上回った。 ・学校行事等の準備・運営や諸問題の対応に、互いに助け合い、組織的に取り組むことができている。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・職員相互の業務内容を再確認し、より一層協力体制の強化に努めていく。

4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」における肯定的回答教職員→ 80%以上	① 教職員一人一人が働き方改革の視点に立ち、業務の効率化を図るとともに、月1回の定時退勤の実践など、適正な勤務時間の意識化に努める。 ② 教職員の負担軽減に向け、校務分掌の改善や学校行事等の実施方法の改善、業務の削減を検討し、実行に努める。 ③ グループウェアや学習情報システム等の有効活用、共有フォルダ内の情報整理・共有に努め、業務の効率化を図る。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答率は76%であり、指標の80%を下回った。 ・ICT機器の活用や資料のデータ化、学校行事等の実施方法の改善等による一定の成果はみられた。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・児童との向き合う時間の確保や教職員のライフワークバランスの実現に向け、更なる業務の効率化や適正な勤務時間の意識化に努めていく。
5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、地域学校園の小学生や中学生、(小学生や)先生と、授業や行事、掲示物などで交流する活動を行っている。」における肯定的回答 児童→ 80%以上 保護者→ 80%以上	① 各校種や小中合同での「あいさつ運動」を中心に、学校園の各部会で企画した小中連携の取組を実践し、古里地域学校園教育ビジョンの実現に努める。 ② 学校園の学力向上部会、ICT教育推進部会、生活支援部会、交流連携部会の活動を通して、三校の相互支援体制を充実させる。 ③ 活動の様子を、各種たよりやホームページで発信していく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は93.4%、保護者は82.8%であり、ともに指標の80%を上回った。 ・3校合同の校外学習や食育活動の実施、中学校、地域協議会と合同実施の「あいさつ運動」など、小中連携の充実に取り組むことができた。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・③ 学校園の各部会を中心に3校の支援体制を充実させるとともに、積極的に情報発信を行っていく。
5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」における肯定的回答 保護者→ 85%以上 地域住民→ 85%以上	① PTA、地域協議会、自治会、民児協等と連携し、さらなる教育活動の充実や登下校の安全確保、児童の健全育成に努める。 ② 地域にある事業所や専門性をもつ人材等の協力・参画を得た授業を計画・実施することで、地域の教育力を生かした教育活動を推進するとともに、取り組みの様子を各種たよりやホームページで発信する。 ③ 地域コーディネーターと連携を図り、学習支援ボランティアを効果的に活用することで、より充実した人材・施設の活用を図る。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答率は88.2%、地域住民は100%であり、ともに指標の85%を上回った。 ・児童の登下校における安全確保や読み聞かせ、様々な学習支援活動など、保護者や地域の教育力に支えられ、充実した学校教育活動を推進することができた。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・地域人材等の協力・参画による教育活動をより計画的に実施できるよう、地域連携教員を中心に地域コーディネーターとの連携を強化していく。
5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進			
6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」における肯定的回答 保護者→ 85%以上 教職員→ 85%以上	① 毎月の安全点検を確実に実施するとともに、危険箇所等が発見された場合は、迅速な改善や修繕に努める。 ② 清掃の手順を明確に示したり、身の回りの整理整頓に関する指導を日常的に行ったりすることで児童の環境美化への意識を高めるとともに、教職員も環境美化に努める。 ③ 避難訓練や引き渡し訓練等の計画的な実施や危機管理マニュアル等の整備により、災害や不審者侵入等の不測の事態に備えるとともに、熱中症や感染症の防止対策等を万全に行う。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答率は89%、教職員は100%であり、ともに指標の85%を上回った。 ・計画的に各種訓練を実施することで、安全な生活に配慮する意識の高揚を図ることができた。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・② 時間いっぱい清掃活動に取り組めるよう丁寧に声掛けするとともに、教職員も率先垂範を心掛け、身の回りを自分からきれいに整えていく意識を高めていく。

6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタル※を積極的に活用している。」における肯定的回答 教職員→ 85%以上	① ICT機器や学習用ソフト・図書資料等の整備に努めるとともに、それらの有効活用に向け、適宜研修を行う。 ② 各教科等において、学習主導主任や情報教育主任を中心にICT機器等の活用場面を意図的に設定し、活用を図る。 ③ グループウェアや学習情報システム等の有効活用、共有フォルダ内の情報整理・共有に努め、業務の効率化を図る。【A16③再掲】	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 88%であり、指標の 85%を上回った。 ・職員研修を適宜実施し、特にICT機器の活用を推進することができた。 【次年度の方針】 ・①②継続 ・③ 授業準備等の観点から、情報教育主任やICT支援員との連携を強化し、ICTに係る教材の蓄積と、クラスルームの活用推進に努めていく。業務効率化については、A16へ集約。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、時と場に応じたあいさつをしている。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 保護者→ 85%以上	① 古里地域学校園や地域協議会と連携した児童会による朝のあいさつ運動、毎週水曜日のあいさつボランティアによるあいさつ運動を継続して行くとともに、状況に応じた会釈の指導など、多様なあいさつの意識化・実践化を図る。 ② 学級懇談会や各種たより等を通して、あいさつの意義や児童の様子を家庭に積極的に伝えとともに、「あいさつふり返しカード」を活用して学校・家庭・地域が一体となった指導を継続する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 94.6%であり、指標の 85%を上回ったが、保護者は 81.6%であり、指標を下回った。 ・地域学校園や地域協議会の連携・協力によるあいさつ運動や、実施方法を工夫した校内のあいさつ運動を展開することができた。 【次年度の方針】 ・①②継続 ・② あいさつに元気のない児童も見受けられることから、あいさつ運動の運営方法を工夫・改善し、より活性化を図っていく。
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 教職員→ 85%以上	① 「学習の約束」「生活の約束」を各教室に日常的に掲示し、指導するとともに、児童が話し合っ、自ら学級のきまりやマナーをつくるといった、主体的な取組をより一層推進する。 ② 月末の「ふりかえりタイム」において、きまりやマナーについての児童の自己評価や生活目標の達成状況等について、校内掲示板等を活用し全教職員で共通理解を図るとともに、継続的に指導を行う。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 94.8%、教職員は 96%であり、ともに指標の 85%を上回った。 ・各学級できまりを守る意識を高めるために、朝の会や帰りの会を利用して、毎月生活目標の確認・振り返りを工夫して取り組んだ。 ・学年ごとに生活目標の達成状況を校内掲示板の活用・共有により、職員間の意識の高揚を図ることができた。 【次年度の方針】 ・①②継続 ・月末の「ふりかえりタイム」における児童への意識付けは一定の成果を上げており、今後は保護者への発信・連携についても検討していく。
	B3 児童は、コミュニケーション能力を発揮し、互いに協力して活動している。 【数値目標】 独自アンケート「私は、学級や縦割り班活動等の時に、みんなで話し合ったり、協力したりして、意欲的に活動している。」における肯定的回答 児童→ 90%以上	① 学級において、日頃から互いに助け合い協力し合うことの大切さを指導するとともに、道徳科の授業において協力・協調の態度を育む指導を充実させる。 ② 学級の係活動や児童会活動、縦割り班活動、学校行事等において、話し合い、コミュニケーションを図れる場、協力して活動する場を意図的に設ける。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 95.6%であり、指標の 90%を上回った。 ・学級活動や特別活動において、互いに意見を出し合い協力して活動を進めることで、児童の意欲を高め、互いの絆を深めることができた。 【次年度の方針】 ・①②継続 ・引き続き、児童同士が協力し合う意義を実感できるような活動を実施していく。

	B 4 児童は、家庭学習を続ける習慣が身に付いている。 【数値目標】 独自アンケート「私は、家庭学習をする習慣が身に付いている。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 保護者→ 80%以上	① 古里地域学校園で作成した「家庭学習のすすめ」を活用し、家庭学習の内容や分量、方法を低・中・高学年ごとに具体的に示すとともに、取組について称賛したり励ましたりして習慣化を図る。 ② 家庭学習の意義や学校での指導内容について、学級懇談会や学年だより等で保護者に周知し、理解や協力を得られるよう努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 87.4%であり、指標の 85%を上回ったが、保護者は 77.3%であり、指標を下回った。 ・家庭学習の習慣は身に付いてきているが、個人差は大きい。進んで家庭学習に取り組もうという態度に課題があると考えられる。 【次年度の方針】 ・①②継続 ・① 各学年の具体的な学習内容（家庭学習の手引き）も、合わせて活用を進めていく。
	B 5 自分の学校のよさを知り、自校への愛情や誇りを持っている。 【数値目標】 独自アンケート「私は、学校の良いところや自慢できることを知っている。」における肯定的回答 児童→ 85%以上	① 学校教育活動全般においてマスコットキャラクター「きらりん」の効果的な活用を図り、共に生きる力を育てる活動の充実を図る。 ・縦割り班活動・各種行事・地域清掃活動等（きらりん運動会、きらりんウォークラリー、きらりん表彰、きらりん清掃（岡本城跡）等） ② 自他を理解し、尊重し合い、支え合う望ましい学級づくりを目指す活動の充実を図る。 ③ 地域の教育力、地域資源を活用し、連携を図った教育活動を推進する。 ・地域の団体・施設、地域協議会と連携した教育活動 ・各種訓練や下校時の見守り	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 87.9%であり、指標の 85%を上回った。 ・自他のよさを認め合い、互いに協力しあって活動する縦割り班活動や委員会活動等の異学年交流が充実していた。 ・毎週クラス遊びを実施している学級が多く、望ましい学級づくりにつながった。 【次年度の方針】 ・②③継続 ・① 各取組を継続して実施するとともに、本校のマスコットキャラクター「きらりん」の存在意義や魅力について、児童と教職員が共に考え、児童がより主体的に活用方法を検討できるよう発展させていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営について】

A 3「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」

肯定的回答：児童 93.3%，教職員 92%で指標を上回ったが、保護者 76%で指標を下回った。

A 17「学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」

肯定的回答：児童 93.4%，保護者：82.8%であり、ともに指標を上回った。

A 18「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」

肯定的回答：保護者 88.2%，地域住民 100%であり、ともに指標を上回った。

B 5「自分の学校のよさを知り、自校への愛情や誇りを持っている。」

肯定的回答：児童 87.9%であり、指標を上回った。

○授業や行事等における児童を認め励ます声掛けや、活動後の振り返りにおける互いのよさを認め合う取組等を通して、自己肯定感を高めることができた。児童の頑張りを各種たよりやホームページ等で保護者等への発信・共有に努めていきたい。

○学校園合同での校外学習や食育活動、中学校と地域協議会との合同で実施した「あいさつ運動」の実施など、小中連携の充実に取り組むことができた。

・児童の登下校における安全確保活動や様々な学習支援活動など、保護者や地域の教育力に支えられ、充実した学校教育活動を推進することができた。更なる充実に向け、保護者や地域コーディネーターとのさらなる連携強化を図っていきたい。

・自他のよさを認め合い、互いに協力しあって活動する縦割り班活動や委員会活動等の異学年交流を充実することができた。愛校心の更なる高揚に向け、本校のマスコットキャラクター「きらりん」の存在意義や魅力について、児童と教職員が共に考えるとともに、児童がより主体的に活用方法を検討できるよう発展させていきたい。

【学習指導について】

A 1「児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」

肯定的回答：児童 92%，教職員 92%であり、ともに指標を上回った。

A 8「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」

肯定的回答：児童 86.9%，教職員 100%であり、ともに指標を上回った。

A 14「教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」

肯定的回答：児童 97.9%，保護者 91.6%であり、ともに指標を上回った。

・ICT機器を効果的に活用した授業を行ったり、話し合い活動が充実するよう課題や場の設定を工夫したりすることで、児童の主体的な学びを促すとともに、学びを深める機会を確保することができた。

・各学年の実態や発達段階等に応じたICT機器や学習ソフト、図書資料の活用を効果的に進めることができた。ICT機器

の活用に係る職員研修についても、適宜実施し、活用を推進することができた。
○児童の実態に応じたきめ細やかな授業実践や指導方法の工夫、ICT機器の効果的な活用等が、児童の学びの充実につながったと考えられる。

【児童指導について】

A 2「児童は、思いやりの心をもっている。」

肯定的回答：児童90.7%，教職員100%であり、ともに指標を上回った。

A 11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」

肯定的回答：児童98.5%で指標を上回ったが、保護者76.9%で指標を下回った。

・学級活動や縦割り班活動等において、児童同士が互いの良さを認め合う機会を確保するとともに、児童の善い行いを教職員間で共有することができた。「ふわふわ言葉」の励行に向け、児童の意識を高められるよう工夫していきたい。

○いじめの未然防止に向け、学校生活のあらゆる場面を通して継続的に指導するとともに、いじめゼロリボン着用、クラスごとのスローガン作成等を通して、児童の人権意識の高揚に努めることができた。「児童指導だより」や学級懇談会等を活用し、日頃の取組等について積極的に発信し、保護者や地域等への連携・協力につなげていきたい。

・学校園や地域協議会と連携・協力によるあいさつ運動や、校内のあいさつ運動を展開することができた。一方、あいさつに元気がない児童も見受けられ、あいさつ運動の運営方法を工夫・改善し、活性化を図っていきたい。

【健康（保健安全・食育）・体力について】

A 4「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」

肯定的回答：児童94.3%，保護者90.5%，教職員96%で、すべて指標を上回った。

A 19「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」

肯定的回答：保護者89%，教職員100%であり、ともに指標を上回った。

B 3「児童は、コミュニケーション能力を発揮し、互いに協力して活動している。」

肯定的回答：児童95.6%であり、指標を上回った。

○保健だより等による周知や生活習慣チェック等の家庭と連携した取組が奏功したと考えられる。今後は、スマホ等の正しい使い方について、課題を整理し、発達段階に応じた日常的な指導ができるよう、家庭と連携して実施していきたい。

・地産地消の給食、各種伝統文化体験、岡本城跡の清掃活動「きらりん清掃」等を通して、宇都宮のよさや魅力に触れる機会の充実を図ることができた。より一層の充実に向け、職員が研修等に励むとともに、地域との連携を強化していきたい。

・計画的に各種訓練（引渡し訓練・地震・火災等の避難訓練）を保護者の協力も得ながら毎年実施することで、安全な生活に配慮する意識を高めることができた。今後は日頃の清掃活動に力を入れ、環境美化への意識も高めていきたい。

・学級活動や特別活動において、互いに意見を出し合い、協力して活動を進めることで、児童の意欲を高めるとともに、互いの絆を深めることができた。

7 学校関係者評価

・A 13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」について、児童が肯定的な回答が9割超であることは、児童が楽しく学校に通っていることであり、一番大切なことであると思う。

・授業や縦割り班活動等のあらゆる活動を通して、困った時に大人に頼らず、子供同士で解決する力が身に付いていくのではないかと期待している。

・ICT機器は、勉強の苦手な子供が進んで授業に取り組めることや、短時間での児童同士や教職員間での活発な意見交換、児童の進捗状況の把握等、効果的に活用することで得られる教育効果は高いと思う。その一方で、その場限りの学習となってしまう、記憶に残っているのかどうか、知識として身に付いているのかどうか心配な一面もある。

・きまりを守る大切さや理由を、子供たちが納得し、守る行動につなげることが重要だと思う。きまりが本当に必要なものかどうか、見直しをすることも大切ではないかと思う。

・A 11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」について、98%の児童が肯定的回答である一方、A 2「児童は、思いやりの心をもっている。」については、児童の肯定的回答は90%にとどまっていることから、いじめは、見えないところであるものと推察される。いじめの根絶に向け、思いやりの心を育てることに注力してほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校の自己評価や保護者、児童、地域協議会委員の皆様方から頂いた貴重なご意見を真摯に受け止め、次年度もさらに組織的・継続的な取組を充実・発展させ、教育活動のより一層の充実と目標の具現化を目指していきたい。本年度、課題として挙げられた内容については、さらに分析を進め、より効果的な方策を講じていきたい。

・日々の授業や縦割り班活動等における児童の主体的な取組について、過程を見守り、適宜、指導助言を行うとともに、保護者や地域との連携強化を図りながら、目標に向かって粘り強く取り組む児童を育てていきたい。

○ICT機器の効果的な活用法については、今後も研究を重ねるとともに、児童の実態に応じたきめ細やかな授業実践や指導法の工夫に努め、児童の主体的な学びのさらなる充実につなげていきたい。

○「いじめは絶対に許されない行為である」ことを教職員一丸となって指導するとともに、保護者や地域とも連携を図りながら、あらゆる教育活動を通して、いじめの未然防止・早期発見に努めていく。

・日頃から児童一人一人の自己肯定感を高められるよう、認め励ます指導や自信を持たせるような支援を継続するとともに、あいさつや「ふわふわ言葉」の励行について、児童の意識を高める工夫を行っていく。